

こじょうぎん
漢詩集「古城吟」を発行した寺本さん

雲海 涅槃像
太古 幽原 連峻 巒
外輪 山頂 夏猶 寒
曙光 描出 靈峰 貌
雲上 禪横 大涅槃

雲海の涅槃像
太古の幽原峻巒を連ね
外輪山頂夏猶寒し
曙光描き出す靈峰の貌
雲上禪かに横たわる大涅槃

※作品の一部をご紹介します



一の宮町手野出身の寺本伊文さん（号＝潔明、81歳、合志市）が、ふる里「古城」への思いなどを綴った漢詩と短歌、それぞれ200作品余り掲載された漢詩集「古城吟」をこのほど発行されました。

寺本さんは25歳（昭和28年）まで阿蘇にお住まいで、現在は、時習館伝肥後流肥後詩吟道場の会長（昭和61年就任）を務め、詩吟の指導に当たられています。寺本さんが漢詩を始められたのは「詩吟は漢詩を吟じるもの、漢詩を身につけ指導に生かしたい」という思いから。県内唯一の漢詩会「原泉吟社」に入会し、恵まれた文才で「手野の大杉」「小嵐山懐古」「阿蘇の野焼き」など数々の名作を生み出されました。さらにこれら自作の漢詩に節をつけ吟じ、阿蘇を漢詩の奥深さと吟の響きで見事に表現されています。

海外のテレビ局が阿蘇で日本茶を取材



ヨーロッパ全域とアメリカの一部で放送される日本を紹介したドキュメンタリー番組の撮影が、宮地で製茶業を営む長田浩二さんの茶園と工場で行われました。番組を制作しているのはフランス国営テレビで、日本で一般的に飲まれているのは茶道で見る抹茶ではなく日本茶であることを紹介したいと取材。阿蘇山をバックに広がる新緑の茶園や、茶摘み、製茶の様子が撮影されました。

撮影のきっかけは、アメリカの友人が長田さんのお茶をインターネットで海外に販売していることで情報が口コミで伝わり取材依頼があったそうです。ヨーロッパの人たちに日本のお茶が阿蘇から紹介されます。

草原を守るには牛を増やすことが1番！あか牛オーナーが「名入れ」

阿蘇グリーンストックが狩尾・木落・小堀牧野組合、波野地区などで行っている「あか牛オーナー制度」で、5月3日、オーナーが牛にふれあい、「名入れ」する交流会が行われました。遠くは茨城県などからオーナーとその家族50人が阿蘇を訪れ、契約の期間（5年間）を見守る牛に好みの名前を入れました。その後、畜舎や放牧の見学、わらび狩り、そして農家のもてなし料理とバーベキューで交流を深め、阿蘇を愛する者同士会話が盛り上がりました。



▲「名入れ」をするオーナーの皆さん

あか牛オーナー制度とは・・・都市市民と畜産農家が連携して取り組む新しい形の草原保全運動です。あか牛の頭数を増やすと共に、あか牛肉の消費拡大に繋げることを目的としています。出資金は一口30万円（5年間契約）。この出資金は飼育契約農家に繁殖用の母牛導入資金として無利子で貸与されます。阿蘇市もこの制度に協賛し1頭につき3万円を補助しています。

オーナーになると契約期間中あか牛肉や特産品が届き、農家の方との交流やあか牛との対面をすることができます。あか牛オーナー制度に興味のある方は、阿蘇グリーンストック ☎35-1110までお問い合わせください。